

講義名	教養特講Ⅰ（自然科学へのいざない）		
科目区分	教養特講		
担当教員	南木 睦彦		
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 4時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要			
<p>現代社会で起こっている様々な現象や、人間生活について学び、社会で活躍する際には、自然科学分野に関する知識や興味が必要である。このことは、高等学校までのカリキュラムで理科教育（物理・化学・生物・地学等）が行われていることからわかる。しかし、高校の学習分野とその量は膨大なものとなり、とくに人文・社会系への大学進学者は自然科学の基礎的概念が十分に習得出来ていないのが実情である。さらには、理科系の科目を敬遠しがちであるだけでなく、この分野に関して新しい知識を身につけようとの意欲に乏しいことも多い。たとえは、生物についての知識や興味は豊富であっても、化学記号が出てくると毛嫌いしてしまう学生が多い。この科目のみで、高校卒業までの知識のかたよりの全てを取り除くことはできないが、科学的知識について興味・関心を持ち続ける態度を醸成することは可能であると考え。なぜなら、これまでの教育段階のどこかのステップで、理科系科目への関心を失ったかもしれないが、小学校低学年の頃には、多様な分野への興味・関心を持っていたはずであるからである。この授業では、資料映像を中心に、前提となる知識がやや貧弱でも理解しやすい授業を心がける。このような学びを通して、自然科学分野に関する知識や興味の必要性について再認識し、これを生涯学び続ける態度を養う。</p>			

到達目標			
<p>自然科学的なものの見方の基礎を知っており、自ら実験・観察をしたり、実験・観察を楽しむ態度を身に付けている。 自然科学分野に関する知識や興味で、現代社会において活躍する際に必要であることを認識しており、いくつかの分野における最近の自然科学分野の成果について説明できる。</p>			

提出課題			
<p>提出課題については遠隔授業の実施に伴い見直します。 毎授業時間終了時に小テストを行ったり、授業の感想などを書いたカードを提出する。 2回程度、授業内容に関連した新聞記事を紹介するレポートを提出する。 期末レポートを提出する。期末レポートの課題は自ら実験してその記録を報告したり、あるいは科学博物館の模擬実験を見学して報告するものである。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>課題については遠隔授業の実施に伴い見直します。 授業終了時の小レポートや新聞記事紹介レポートは、授業中に講評・解説する。期末レポートについては提出期限が授業終了後であることから、Portalを利用して講評・解説する。</p>			

評価の基準			
<p>評価の基準については、遠隔授業の実施に伴い見直します。 平常点（授業中の小テスト・カード、授業中の発言など）40点、新聞記事紹介小レポート2回程度で合計20点、期末レポート40点とし、合計100点になる。なお、平常点は「出席点」ではないことに注意すること。提出物の内容があまりに貧弱な場合はマイナス点とする場合があるし、非常に優れている場合は、40点を超えて加算することもある。 1/3を超えて欠席した場合は期末レポートを提出する権利を失い、「試験欠席」の扱いになるので注意すること。</p>			

履修にあたっての注意・一言他			
<p>自然科学系の科目が得意な学生は楽しく受講できるだろうが、苦手な学生にも積極的に受講していただきたい。</p>			

教科書			
. 使用しない。			

プリント資料及び参考文献			
授業中に随時配布する。			

授業計画			
<p>授業計画については遠隔授業の実施に伴い見直します。 1回～6回 実験と観察、実験バラエティ番組を含め映像資料を中心に視聴して、「自然科学的態度」について学ぶ。また、実際に簡単な実験を実施する 7回・8回 科学技術記事を読むⅠ 最近の話題、新聞や雑誌の最新号から直近の話題を取り上げる。新聞記事レポートについても説明する。 9回・10回 コミュニケーションの科学 人間のコミュニケーションについて深く学ぶ、特に男女の違いや、性格の違いによるコミュニケーションの差異について学ぶ。 11回・12回 実験を楽しむ 映像資料を用いて、様々な実験の楽しみ方やその意味を考え・感じる。なお、期末レポート課題についても説明する。 13回・14回 科学技術記事を読むⅡ 最近の話題、新聞や雑誌の最新号から直近の話題を取り上げる。2回目の新聞記事レポートについても説明する。 15回 疑似科学 UFO、超能力や、身の回りの「疑似科学」について、批判的に学ぶ</p>			

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート	
エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>準備学習については遠隔授業の実施に伴い見直します。 配布資料に記入したり、またノートを作成する。授業内容を整理する作業を、授業時間中に実施する。したがって、予習復習は原則的には必要ない。メモ・ノートの整理に授業終了後10分から20分程度は必要である。 新聞記事小レポートは最初は大変であろうが馴れば数時間で作成可能である。 期末レポートの作成には半日から数日を費やすだろう。 以上から、この授業の授業時間外学習時間は、合格に達する平均的な学生で、12時間～40時間程度になると思われる。</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	

実務経験の有無及び活用	

備考	